

週刊誌に惑わされないで

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



6月発売の男性向け週刊誌に数週にわたって「飲んではいけない薬」といったタイトルでいくつかの薬の実名があげられ、新聞広告にも大きく掲載されており、目にした方も多かったのではと思います。当院を受診される患者さんからも多く質問を受けましたし、中には怖くなって薬を飲むのを止めたという人もいました。

実際の記事を読んでみると、表紙や新聞広告に書いている内容とはかなり異なることがわかります。例えば表紙には「高血圧のAという薬は飲んでも意味がない、寿命が縮む」と書いていますが、記事には「血圧の薬はAでなくても、副作用は多いが安価な薬があるのでそちらを処方してもいいのではないか」といったことが書いています。また「脳梗塞を予防するBという薬は医者もこわごわ使っている」と表紙にあります。実際の内容は未熟な医師が「Bは新しくいい薬だが、今まで必須だった採血の手間が無くなった分、逆に効果を実感しにくい」と的を外れたことを言っているだけです。他にも極めて稀な副作用だけを取り上げ、薬を中止した場合の危険性には触れずといった公正さを欠く偏った記事が目につきます。

確かに薬は副作用といったリスクも伴うものですし、患者さんの金銭的な負担もあります。そのため一人一人の病状や背景を吟味し、薬を飲むことによって受ける恩恵と、稀に起こり得る副作用の危険性、患者さんが負担しなければいけない薬代等を総合的に判断しています。記事に書いてあるようなことも十分承知した上で、最適と思われる薬を処方し、定期的に検査を行うなど対策も講じているのです。

週刊誌は以前から同様の記事を繰り返し掲載しています。数多く処方されている薬を標的にし、乏しい根拠で批判・掲載することで不安をあおり、週刊誌を購入させる狙いもあると思います。週刊誌に惑わされず、不安・疑問があればかかりつけ医に相談されて下さい。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000